

10) 熱(大気)環境問題図

地図の概要

都市の熱環境及び大気質の改善方策を検討していくためには、都市の熱(大気環境)が市民生活へ及ぼす影響を考慮した上で改善方策の必要性について検討することが重要である。

地図作成の対象及び目的

熱(大気)環境の評価結果をもとに市民生活への影響の大きさと併せて評価して都市の問題点を示すものであり、都市の熱環境を検討するスケールである第2階層で作成される。

作成手順及び使用するデータ

熱帯夜出現日数分布や高温暴露時間数分布等の熱環境の評価結果に加えて、人口分布等の市民生活に関わる指標を用いて地図を作成する。例えば、夜間の熱帯夜増加に伴う人体へのストレスを検討する場合には、熱帯夜出現数分布と夜間人口分布を用いて地図を作成する。

地図の表現方法

熱(大気)環境の評価結果と人口分布状況等を一枚の地図上に重ね合わせて表現する。

地図作成上の留意事項

別途作成した熱(大気)環境の評価結果を表現する図を用いる場合には、その図のデータや作成方法を明らかにする必要がある。人口分布については、昼間を検討する場合は居住人口に就業者人口を加える等、検討内容に応じて用いるデータを使い分ける必要がある。

地図の見方・利用方法等の説明資料

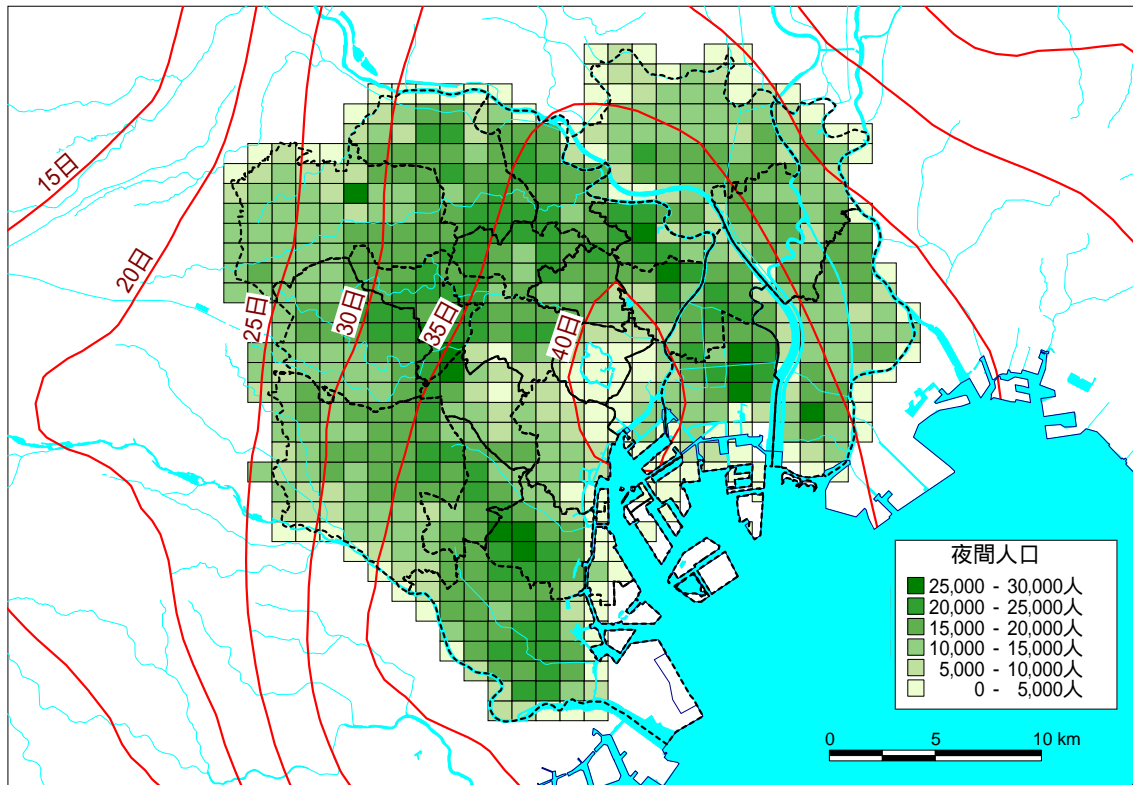


図 34 夜間の熱環境問題図

1. 図の基本情報	
1) 図のタイトル、目的	熱環境問題図（夜間） （目的：熱帯夜の影響を受ける人口分布状況の把握）
2) 図のスケール	約 40km × 約 30km
3) 図の作成年月	2003 年 3 月
2. 図の作成手順	
1) 図の使用データ	大気汚染常時監視測定局データ（1998～2000 年の 7・8・9 月） 地域メッシュ統計（平成 7 年度国勢調査）総人口データ
2) 図の作成手順	熱環境の評価結果として熱帯夜出現日数分布（20 頁図 11）を用い、 人口分布については国勢調査の総人口メッシュデータを用いた。
3) 図の解像度	メッシュの大きさ：1km × 1km
4) 作成上の留意点	-
3. 図の解説等	
1) 図の見方	熱帯夜出現数については等値線、夜間人口密度については人口に応じた色階を用いて表現している。
2) 図の解説	最も熱帯夜出現数が多い都心部では比較的人口密度が少なく、次に熱帯夜出現数の多いエリアに含まれる地区では人口密度が高い傾向が見られる。

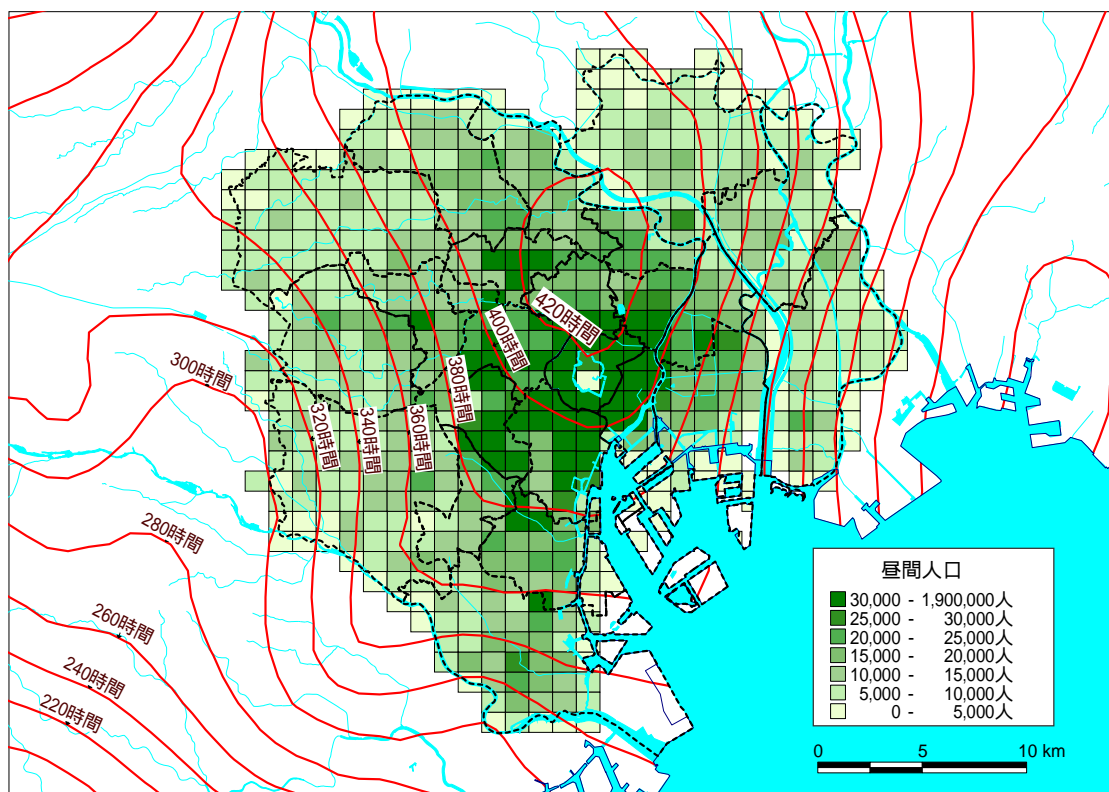


図 35 昼間の熱環境問題図

1. 図の基本情報	
1) 図のタイトル、目的	熱環境問題図（昼間） （目的：昼間の暑熱化の影響を受ける人口分布状況の把握）
2) 図のスケール	約 40km × 約 30km
3) 図の作成年月	2003 年 3 月
2. 図の作成手順	
1) 図の使用データ	大気汚染常時監視測定局データ（1998～2000 年の 7・8・9 月） 地域メッシュ統計（平成 7 年度国勢調査）人口データ 地域メッシュ統計（平成 8 年度事業所・企業統計調査）従業員数データ
2) 図の作成手順	熱環境の評価結果として 30 超時間数分布（19 頁図 10）を用い、人口分布については国勢調査の完全失業者数、非労働人口、一次産業就業人口メッシュデータ及び事業所・企業統計調査の二次・三次産業従業員数を用いた。
3) 図の解像度	メッシュの大きさ：1km × 1km
4) 作成上の留意点	-
3. 図の解説等	
1) 図の見方	30 超時間数については等値線、昼間人口密度については人口に応じた色階を用いて表現している。
2) 図の解説	都心部の人口密度の高い地区で高温暴露時間数が多くなっている傾向が見られる。